

## 【著書紹介】

### 気象ボックス 039 「衣服と気候」

田村照子著

小柴朋子

文化学園大学服装学部

この著書は、被服衛生学部会の当初の立ち上げから、長きにわたり部会で活躍され、部会長も務められた文化学園大学大学院の田村照子先生による単著である。

文中の多くの貴重な図表が特徴のハンディな著書で、構成は、次のようである。

- 第1章 衣服の起源、
- 第2章 現代社会における衣服と気候の関係、
- 第3章 着脱行動の引き金、
- 第4章 皮膚における温冷感湿潤感の感受性、
- 第5章 衣服の保温性・放熱性を測る、
- 第6・7章 衣服による寒さ・暑さ対策
- 第8章 気候と快適着衣の定量的関係
- 第9章 世界の民族服・日本の民族服
- 第10章 さまざまな衣服と気候
- 第11章 環境時代の気候と衣服

巻頭には、「街角ウォッチング」の撮影写真や、世界の民族服、気温に応じた標準的着衣のカラーページがある。第2章では、ユニークな定点観察による実態観察、第3章では体温調節の基礎的知識、第4章ではエイジングによる温度感受性の低下、湿潤感の実際など人の感覚生理が扱われている。続いて、第5章からは衣服の熱・水分特性と衣服による快適な気候調節について述べられ、サーマルマネキンの開発とその利用についての解説もある。第9章では日本の着物の気候適応性、第10章では寝具・スポーツウェア・防護服・乳幼児・高齢者服について、第11章ではクールビズやLCAについても詳しく述べられている。

田村先生は2014年3月に一旦大学を退かれたが、その前の非常に忙しい分刻みの毎日の中で執筆された。構想6年を経て、人体の温熱生理と衣服の熱水分特性に関する45年以上の研究成果の集大成として、それまでの成果を広く一般の方々に広め、また我々後輩のために読みやすくまとめ

てくださった。貴重な書である。

巻頭インタビューの中で聞き手の成山堂の青柳氏が田村先生に向かい、「長い制作期間を経て、

力のはいった映画作品のようだ」と述べられているように、1ページ1ページに専門的な知見が記されている。被服衛生学領域の温熱生理と衣服による気候調節について広くカバーしているにも関わらず、本書に引用されているすべての研究データが、全部田村先生自身の研究成果でオリジナルであることに驚くとともに、その文中に田村先生に教えを受け、研究させていただいた私達弟子の名前が具体的に文中やコラムに登場し驚いた。先生のお人柄が表れている。終章の「近未来のファッション」の中に先生の思いが述べられている。「どこでもスーツ」や「クール消防服」について本気で考えていると。今後ますます研究に取り組まれると思う。

この書は「気象ボックス」という気象関係のシリーズ本の一冊として刊行されたものではあるが、被服衛生学についての専門書であり、啓蒙書であり、入門書であり、参考書であり、教科書というべき内容である。いつもそばに置き、この書の内容とともに、先生の研究に対する熱意と、真摯な追究、実験結果に対する謙虚な姿勢を共に心に留め、今後の被服衛生学研究に臨みたいと思う。

<連絡先>

〒151-8523 渋谷区代々木3-22-1  
文化学園大学服装学部 小柴 朋子  
電話：03-3299-2336 FAX：03-3299-2336  
eメール：koshiba@bunka.ac.jp



成山堂書店 四六版/238頁、  
1800円+税、2013年12月発行